社会科学習指導案

指導者　西畑　郁希

1　日　　時　　令和 6 年 11 月 16 日（土）　第 2 校時（10：05～10：50）

2　学年・組　　小学校第 5 学年 2 組　計 31 名（男子 16 名，女子 15 名）

3　場　　所　　小学校第 5 学年 2 組教室

4　単 元 名　　森林とともに生きる私たち

5　単元について

国土の 7 割を森林が占める山岳国家であるわが国において，これまで森林から多くの恩恵を受けてきた。しかし，現在，意図的に森林と関わろうとしない限り森林を身近に感じることは少ない。なぜなら，高度経済成長以降，私たちと森林とのつながりが希薄になったためである。その結果，林業従事者が減少したことで森林が荒れたり，適切な森林管理が行われないことで土砂災害が増加したりするなど，多種多様な森林に関わる問題が顕在化してきた。そして，こうした問題は私たち市民にとっての大きな関心ごとにはなりえていない。

以上のような問題意識を踏まえ，日常生活の中で当たり前のように多くの恩恵を受けている森林に関心をもち，森林の手入れをすることで，森林から得られる価値を最大限にし，余った資金で次の世代のために植林をするというサイクルを回すことで，森林の公益的機能の維持を図りつつ，必要な木材を提供し続ける持続可能な林業について理解できるようにすることを本単元のねらいとする。『小学校学習指導要領解説社会編』では，「森林は，その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること」や「森林資源の分布や働きなどに着目して，国土の環境を捉え，森林資源が果たす役割を考え，表現すること」が求められている。ここでは，「林業」という視点からわが国の森林の現状や未来について考えることにする。なぜなら，これまで森林に直接関わって，木を守り育ててきた「林業」に焦点をあてた授業づくりを進めることで，日本の森林の現状を歴史的に捉えることができるだけでなく，間伐の視点，木材生産販売の視点，外国との関係の視点など多様な視点からわが国の森林について理解できると考えたためである。また，指導要領から「林業」という言葉が消滅して以降，森林と環境の結びつきに重点を置いた国土保全学習が中心的に行われるようになったことで，森林に関わる人々の営みが見えづらくなったため，人々の営みが見える「林業」に焦点を当てた単元開発を行うことも必要と言えるのではないか。本単元では学習材として「岡山県西粟倉村の林業」を取り上げる。全国的に衰退傾向にある林業の中で，「西粟倉村」は「百年の森林構想」を掲げ，行政と企業と市民とが協力して林業に取り組み成果を上げている自治体である。課題解決が難しい林業であるからこそ，「西粟倉村」の林業の成功事例を通して，未来の林業のあり方について希望をもって学習していくことが必要なのではないか。

本学級の児童は，総合的な学習の時間の「山の学習」で，オリエンテーリングやクラフトを行うなど，森林の中での活動を体験している。そのため，山の生活の不便さや自然の雄大さについての共通体験をもっている。「世界から見た日本」では，日本の国土の特色について学習するなかで，日本は土地の高低差が高く，自然に囲まれた森林の多い国であることを理解している。一方で，都市部が生活圏内の児童がほとんどであるため，森林との関わりは薄い。実際に「森林・林業」についての事前調査では，30％近くの児童は森林や木について親しみを感じておらず，そうした体験や活動を学校外では経験したことがないことが分かった。また，多くの児童は木を伐ることは悪いことだと捉えている。

指導にあたっては，第一次では，私たちの生活と森林とのつながりを実感的に理解できるようにしたい。私たちの身の回りにある多くの木材を原料とした製品を見つける活動や，日本に植生する木々に触れる活動をすることで，心理的物理的にも距離の遠い森林の学習に主体的に取り組むことができるよう

にしたい。その後，日本の木材自給率について調べたり，世界の森林と日本の森林とを比較したりすることで，単元を貫く学習課題「日本の森林率は３位なのに，なぜ木材自給率は低いのだろうか？」を設定する。第二次では，単元を貫く学習課題を解決するために，「林業」に焦点を当てて追究を進める。木材自給率や木材輸入の変遷や木材価格表などの資料を読解するなかで，戦後多くの森林を伐採したことで，国内だけで必要な木材を賄うことができなくなったこと，現在では木材価格が低下したことで，木を伐採しても安い価格でしか取引がされないこと，間伐が積極的に行われるようになったものの，適切な植林がされていないことを理解できるようにする。また，日本の地形に着目することで，作業をしたり木材を搬出したりするのが難しい点や，日本の人工林のほとんどを占める針葉樹林の使用用途に着目することで，木材の性質によって建造物に使われるか家具に使われるかが異なることを理解できるようにする。そうすることで，本単元のねらいである持続可能な林業のあり方について考えることができるようにしたい。また，持続可能な林業を実現するにあたって，労働者不足，林業という仕事の大変さ，路網の不整備，木材価格の低下などといった課題を解決する必要があることに気づけるようにする。第三次では，全国的には課題が山積している林業を主要産業に据えて，街の活性化を図る「西粟倉村」の林業を学習材として取り上げる。第二次までの学習を踏まえ，他の自治体とは異なり，なぜ西粟倉村では林業を主要産業とすることで，様々な関連する産業を生み出したり，人口が増加したりしているのかを問いかけ，自治体と民間企業と市民の三者が協働して林業に向き合うことが必要であることを理解できるようにする。また，西粟倉村では，森林からどのような価値を見出しているかを考えることで，森林の多様な価値を児童も認識することができるようにしたい。最後に，持続可能な林業は「西粟倉村」だけでしか実現しないのかを考えることを通して，日本各地での持続可能な林業のあり方について考えをもつことができるようにしたい。

６　単元の目標

（１）　森林を適切に管理したり，次の世代のために植林をしたりするサイクルを回すことで，森林から得られる価値を最大限にするだけでなく，森林の公益的機能の維持が図られ，持続可能な林業が実現するためには，自治体・民間・市民の三者における協力の必要性を理解できる。

（２）　森林資源に恵まれた我が国の木材自給率がなぜ低いのか，またどうすれば持続可能な林業が実現されるのかについて考え，表現することができる。

（３）　私たちの生活の中にある森林に興味・関心をもち，森林に関わる諸問題について自分のこととして捉え，学習に取り組むことができる。

７　指導計画（全 10 時間）

次	時	学習内容
1	1	私たちの生活と森林のつながり
	2	日本の森林率と木材自給率
2	3	林業という仕事
	4	木を伐ることで森林を守る
	5	外材と国産材の関係
	6	木材自給率を上げるため必要なことは・林業が抱える問題
3	7	林業で稼ぐ「岡山県西粟倉村」

	8	「岡山県西粟倉村」で林業が成功した理由（本時　８／１０）
	9	日本各地で林業をさかんにするために
	10	日本の森林がもつ価値

8　本時の目標

西粟倉村では，行政が山林所有者から積極的に山を預かり利益を還元する理由を考えることを通して，行政・民間企業・市民が一体となって林業を進めていく必要性を理解することができる。

【知識・技能】

9　「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	西粟倉村では，行政・民間企業・市民が一体となって林業を進めるなかで，様々な関連する産業が生まれていることを理解し，記述できる。
Ⅱ	西粟倉村では，行政・民間企業・市民が一体となって林業を進めていることを理解し，記述できる。（評価規準）
Ⅰ	西粟倉村では，行政・民間企業・市民が一体となって林業を進めていることを理解し，記述できない。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○　課題山積と思われやすい第一次産業で，未来に希望をもち学習に取り組むことができる教材を開発する。【授業構想力】 ○　西粟倉村の林業を学ぶ学習を通して，日本の林業の実態や関係する人々の思いを捉え，日本の持続可能な林業のあり方の一端を理解できるような授業構成とする。【授業構想力】 ○　西粟倉村では，行政・民間企業・市民の三者が一体となって，林業を進めていること視覚化できるように板書し，児童の思考を整理する。【授業実践力】	

10　学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
１．山林所有者の悩みや課題を理解する。 ・どこまでが自分の山か分からない。 ・高齢化で山を手入れすることも難しい。	○　西粟倉村以外の地域の事例を取り上げることで，山林所有者の悩みは全国共通だと理解できるようにする。
２．西粟倉村では，山林所有者から山を預かり手入れを無料で行うだけでなく，利益の半分を山林所有者に還元していることに気付き，本時の学習課題を設定する。	○　施業費よりも利益の方が少ないのに，なぜ西粟倉村は取組を行うのかを問うことで，学習課題を設定できるようにする。
なぜ，西粟倉村では村民の山を預かって，山の手入れをするのだろうか？	
３．本時の学習課題を予想し，話し合う。 ・村民の思いに応えているから。	○　「西粟倉村は利益がなくてもいいのか？」と問うことで，意見交流が深まるようにする。

・国や県からお金をもらっている。 ・国本さんのような林業の会社が西粟倉村にあり手伝ってもらっている。	○　既習の西粟倉村で林業営む国本さんの写真を提示し，林業と関連付けて考えることができるようにする。
4．西粟倉村の山を預かる取組の効果について考える。 ・村民は山を預けることで，役場からお金をもらえるだけでなく，民間企業で新しく働ける場所も増えてうれしい。 ・林業家は，役場が積極的に林業に対する取組を支援してくれるのでありがたい。 ・役場は，林業がさかんになることで税金も多く入り，西粟倉村で働く人も増えるので，ありがたい。 ・西粟倉村の木と広島の木は同じなので，どの地域でも同じような取組ができる。	○　西粟倉村の林業システムの良さと普遍性に気付けるよう以下の手立てを講じる。 ・西粟倉村役場の妹尾さんが取組は効果があったと話す資料を提示する。 ・「○○にとってどんないいことがありそうか？」と問い，村役場（行政），林業家（企業），村民（市民）の三者の立場にたたす。 ・「この取組が実現できるのは西粟倉村だけか？」と問う。 ○　行政・企業・市民の三者の林業への関わりを板書で可視化することで，三者が協働した林業への取組を理解できるようにする。
5．所有者の分からない山林が増加していることに気付き，森林管理に対する人々の意識の低下をとらえる。 ・もしかしたら，おじいちゃんおばあちゃんの家にある山も，この問題と関係しているかも。	○　森林管理に対する意識の低下をとらえられるように，以下の手立てを講じる。 ・西粟倉村では，所有者が県外や不明となっているため，半分の森林が適切に管理されていないことがわかる資料を提示する。 ・所有者不明と山林に関わる新聞記事を提示する。